九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第7巻 : 部局史編 IV

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1801803

出版情報：九州大学百年史. 7, 2017-03-31. 九州大学
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

第 80 編

百周年記念事業推進室

第 1 章　記念事業の実施体制

百周年記念事業を推進する学内の体制は、2005（平成 17）年 12 月 16 日に開催された部局長会議において、百周年記念事業委員会の設置が承認されたことに始まる。同委員会は、梶山千里総長（2008 年 10 月 1 日から有川節夫総長）を委員長とし、担当理事に柴田洋三郎理事・副学長（2008 年 10 月 1 日から落合英俊理事・副学長)、理事・副学長、理事・事務局長、理事、副学長、各研究院長など全学各組織のトップを構成員として、百周年記念事業の実施方針および実施計画の策定が行われた。記念事業委員会に百周年記念事業専門委員会が設けられた。専門委員会の下に実行、募金、経理、史料編纂の各委員会が置かれ、さらに実行委員会には事業、式典、デザイン・広報・社会連携の各部会、募金委員会には法人募金、個人募金の両部会、経理委員会には経理・基金部会が置かれた。史料編纂委員会には百年史編集委員会が置かれ、各部局の編集組織と百年史編集の担当部署として百年史編集室が設置された。このように学内における記念事業の実施体制が整備され、実施方針・計画の具体化に向けた体制が整った。

2006 年 4 月 1 日には、百周年記念事業を推進する事務組織として百周年記念事業推進室が設置され、コーディネーターおよび協力教員を配置して、募金活動および記念事業活動への助言を受けた。

百周年記念事業推進室の設置と同時に九州電力株式会社内にシニアディレクター（九州電力社員）が配置され、九州電力と連携して百周年記念事業の学外支援組織である「九州大学百周年記念事業推進会」の設置について準備を進めるため、九州電力株式会社鎌田迪貞（みちさだ）会長および九州経済連合会等との交渉が行われた。地元経済界の有志を中心にした発起人の方々の呼びかけもあり、推進会幹事会・推進会準備会における推進会設置の検討を踏まえて「九州大学百周年記念事業推進会」（会長：鎌田迪貞九州経済連合会会長）が 2007

年 2 月 28 日に設立された。(2009 年 5 月 26 日から会長：松尾新吾九州経済連合会会長)

推進会は、学外から百周年記念事業活動を支援する組織として、九州大学と密接な連携を取り、企業・団体等への百周年記念事業募金の活動を展開してきた。また、募金事業を推進するために推進会に「幹事会」「東京部会」「関西部会」が設置され、九州大学と幹事会との密接な連携のもとに、東京地区および大阪地区をはじめとした各方面への募金活動が行われた。

第 2 章　百周年記念事業の事務支援体制

百周年記念事業を推進するため、2005（平成 17）年 12 月に百周年記念事業委員会の設置が認められたことで実施体制整備の第一歩を踏み出した。記念事業を推進するために事務組織の体制整備を図り、2006 年 3 月には「九州大学事務組織規則」の改正を行い、特定のプロジェクト等の事務を処理する支援室等を置くことができるようになった。これに伴う九州大学支援室等規程の整備により、2006 年 4 月 1 日に百周年記念事業を事務的に支援する独立組織として「百周年記念事業推進室」が設置された。当初は、室長・室員 2 名・派遣職員 1 名の 4 名体制で発足し、その後事務補佐員 1 名・派遣職員 1 名が順次増員され、さらに室長補佐 2 名が配置された。

推進室は、2007 年 11 月 1 日から事務組織の見直しにより設置された社会連携課に置かれることとなった。初代の市山郁生課長の下に推進室は、シニアディレクター1 名が増員され、2008 年 4 月 1 日からは課長が室長を兼任した。推進室は 2009 年 3 月末日をもって廃止され、それに伴い社会連携課に百周年記念事業係が設置された。同時に落合理事・副学長を室長とする大学組織の百周年記念事業推進室が設置され、記念事業推進の強化が図られた。

2009 年 8 月 1 日に百周年記念事業に特化した百周年記念事業推進課が設置され、社会連携課に置かれていた百周年記念事業推進係を置き募金活動および記念事業の推進に向けた体制の整備強化が図られた。

東京同窓会・関西同窓会・福岡同窓会の設立

百周年記念事業を機に各地域同窓会が設立され、同窓会の活動が活発になった。2004（平成 16）年 5 月 14 日に、東京地区の九州大学同窓生の交流と親睦を横断的に深めるとともに、同窓生と九州大学との連携協力を密にし、母校である九州大学のさらなる発展に貢献するため、関東在住の同窓生を対

象とした「九州大学東京同窓会」が設立された。

また、2008 年 6 月 25 日には、関西地区およびその近隣に在住する九州大学同窓生で組織する学部横断的な「九州大学関西同窓会」が設立された。

さらに、2011 年 4 月 13 日に、福岡において、全学的な卒業生および修了生等の親睦を図るとともに、同窓生の愛校精神を醸成し、情報交流の場を活性化させ、九州大学の発展に寄与することを目的とするために、部局横断的な交流の場とする「九州大学福岡同窓会」が設立された。

東京オフィス・大阪オフィス・博多駅オフィスの開設

2002（平成 14）年 10 月に「九州大学東京オフィス」が開設され、首都圏における情報の収集・発信、企業等との連携、同窓生との交流等の促進に活用されている。

また、2008 年 6 月に「九州大学大阪オフィス」が開設され、関西地区における情報収集・発信、関西地区同窓会の活性化が図られた。

東京オフィスおよび大阪オフィスは、九州大学の理事をはじめとする役員・教職員と各オフィスに所属していたコーディネーターが協力して募金のため企業等を訪問するなど、募金活動における各地区の拠点として利用された。

2011 年 3 月には、JR 博多シティに「九州大学博多駅オフィス」が開設され、都心部における九州大学の情報発信および収集の拠点とともに産学連携活動や同窓生の交流活動などに利用されている。

第 3 章　募金活動

百周年記念事業の募金にあたって、記念事業の内容、募金対象者等を検討した結果、募金目標総額を 100 億円とすることが 2006（平成 18）年 7 月の百周年記念事業委員会で決定された。

九州大学百周年記念事業を行うための資金は、「九州大学百周年記念事業基金」を 2006 年 11 月に設置し、基金の原資は百周年記念事業に賛同する個人・企業等からの寄附金によるものとした。

2006 年 12 月から学内教職員への募金活動が開始され、続いて、2007 年 9 月からは企業等への支援要請、同年 12 月からは卒業生への支援要請を行い、2012 年 3 月まで募金活動を行った。募金活動にあたっては、九州大学同窓会連合会を構成する学部同窓会や地域同窓会からの多大な協力があった。また、百周年記念事業推進会の協力・支援のもと企業等へ募金の要請を行い、その際には、九州大学卒業生の企業内部からの力強い支援による募金活動が行われた。

第 4 章　百周年記念事業の概要

九州大学は、創立百周年を迎えるにあたり、これまでの 100 年の歴史を踏まえつつ、新世紀における九州大学の基本的目標を「百周年記念事業」というかたちで具体化し、推進していくこととした。

記念事業の企画・推進のため、九州大学百周年記念事業委員会において「百周年記念事業」の内容等について検討を重ね、2006 年 10 月に百周年記念事業のスローガン・コンセプト・事業概要を決定した。

スローガン

「知の新世紀を拓く」

コンセプト

「100 年の伝統を基盤とし、知の新世紀を拓く」

1. 新しい知の創造拠点の構築
2. 知のアジアグローバリズムの先導
3. 人類の未来を切り拓くリーダーの育成

事業概要

1. 教育研究環境の整備充実を図るための九州大学基金（仮称）の創設
2. 生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進事業
3. 産学連携・地域連携等推進事業
4. 国際交流推進事業
5. 九州大学百年史の編纂と記念式典・記念シンポジウム等の開催

百周年記念事業の実施・推進のための資金については、主として教職員・卒業生をはじめとする個人および企業等の法人・団体からの寄附金で賄うこととして、2006 年から教職員を手始めに卒業生、企業等の法人・団体に「百周年記念事業募金」への協力を呼びかけた。

第 5 章　九州大学基金の創設

九州大学基金は、2011 年に百周年記念事業の 1 つとして創設された。九州大学が、世界そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育をいっそう推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、九州大学の教育研究・診療等に対する支援とその環境のさらなる整備・充実を図ることを目的としている。この目的を達成するため、九州大学は基金を戦略的に充当・活用して、様々な事業に取り組んでいる。

支援助成事業

学生・研究者が安心して教育・研究・診療に専念できる環境を実現し、グローバルに活動する、深い専門的知見と幅広い教養に支えられた豊かな発想力と判断力を持った指導的人材を育成するために、2012（平成 24）年度から次の支援助成事業を行っている。

①山川賞
②博士課程学生の研究奨励金
③学生の独創的研究活動支援
④海外留学渡航支援
⑤学生の国際会議等参加支援
⑥課外活動支援
⑦若手教職員の長期海外派遣支援
⑧若手事務・技術職員の能力開発、教職員の海外派遣等支援
⑨教材・ソフトウェア開発、コンテンツ整備等支援
⑩社会との連携活動支援

⑪卒業生・同窓会等の連携活動支援　　など

プロジェクト支援

九州大学が推進・支援するプロジェクト事業のために使途特定寄附金を積み立てて、次のプロジェクト事業を支援している。

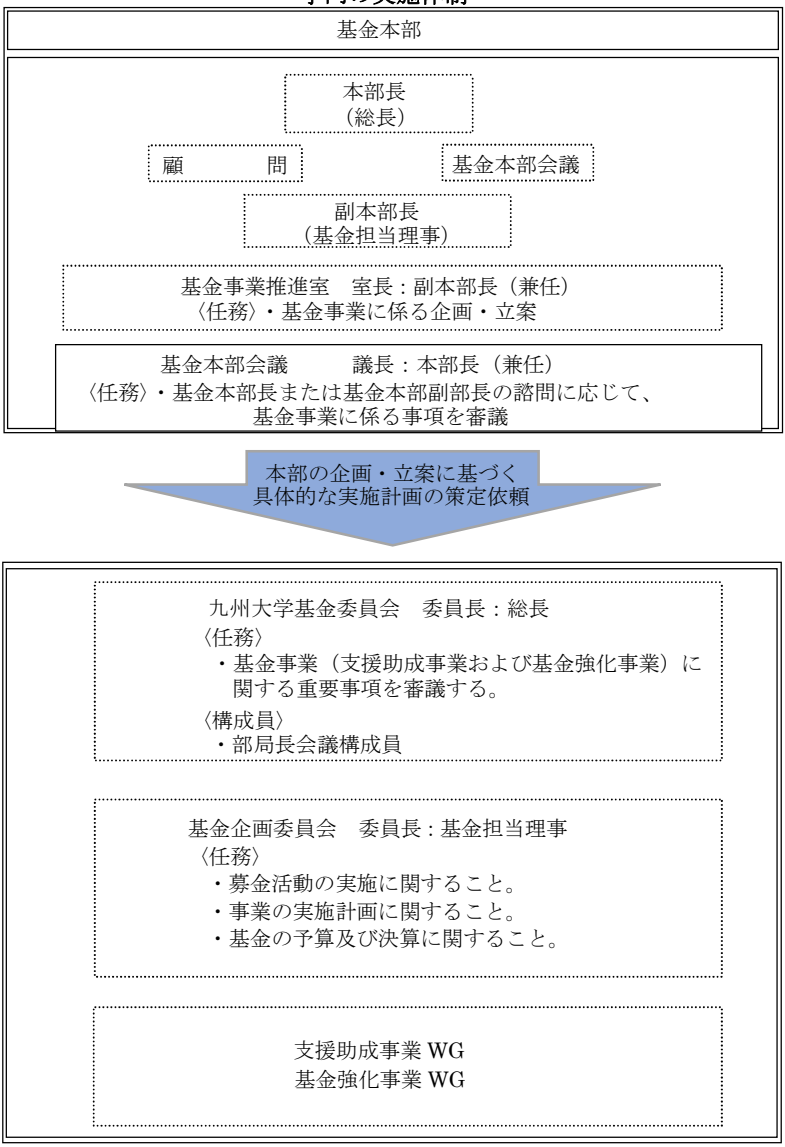
・新亭々舎プロジェクト
・医学歴史館プロジェクト
・法科大学院六本松プロジェクト　　など

実施体制

九州大学基金を有効に活用するため、管理と運営にあたって、最大限の効果が発揮できるよう万全の実施体制が整備された。

2011（平成 23）年 10 月 1 日に、九州大学基金による支援助成事業および基金強化事業を推進するための組織として基金本部が設置され、有川総長を本部長とし、落合理事・副学長を副本部長として、企画・立案にあたった。具体的な実施計画にあたっては、有川総長を委員長とする基金委員会において重要事項の審議が行われ、落合理事・副学長を委員長とする基金企画委員会において具体的な実施計画の策定が行われた。

学内の実施体制



（『九大広報』百周年特集号、2013 年、p.24）

第 6 章　百周年記念事業推進室の廃止

2006（平成 18）年 4 月 1 日に百周年記念事業推進室が総務部総務課に設置されたことにより事務組織の支援体制が整備された。推進室の業務は、百周年記念事業委員会の運営、九州電力株式会社および九州経済連合会等の助力を得て九州大学百周年記念事業推進会の設立、ならびに推進会に置かれた幹事会が中心となり東京部会および関西部会と連携をとった募金活動の推進であった。

2009 年 3 月 31 日に事務組織の推進室が廃止されたことと同時に、これに代わり理事を室長とする大学組織の百周年記念事業推進室が設置され、記念事業推進の強化が図られた。

2006 年 12 月から開始された募金活動は、当初の予定通り 2011 年 3 月をもって終了した。同年 9 月には記念事業の目的を達成することができたことにより九州大学百周年記念事業推進会が解散した。

百周年記念事業推進室は、募金活動・記念事業および創立百周年記念行事の終了によるすべての目的が達成されたことにより、2013 年 3 月末日をもって廃止された。